

---

# サイコ・ジャーナリスト

子鉄

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

サイコ・ジャーナリスト

### 【Nコード】

N9726D

### 【作者名】

子鉄

### 【あらすじ】

一人のジャーナリストが、失敗を繰り返しながらも、懸命に生き抜く様を描きました。

私はジャーナリズムというものを己の職業として、日々日本中を飛び回っていた。

コラムを書いたり、講演をしたり、対談をしたり。

様々なオファーが引つ切り無しに舞い込んできたが、その中でも一番、熱く弁舌を振るったのがテレビの仕事であろう。

「それは話がずれてると思いますが」

「え？ずれてる？なっ、なにがですかっ！」

「いえ、話の論点がですね……」

「あ、ああそっちですか。失礼しました」

「激しく動く政局をどうお考えですか？」

「は、え？ハゲがなんですって？」

「いや、激しくです。激しく」

「ああ、そっちですか」

「しかし、山下さん、今回の選挙は少々気が抜けてしまったんじゃないですか？」

「はあっ？毛が抜ける？ハゲてる？私が？なんですか？私が頭に何

か乗せてるとでも言うんですか。あはっ、あははーっ。あば・あば・ばばばー」

「山下さん？ やっ、山下さんっ！・・・えー、途中で中継が途絶えました事をお詫びいたします。さて、次のニュース。向日町動物園の人気者アライグマの風太ちゃんが立ちました。ここで一句、我輩も夜はベッドで風太ちゃん。では、今夜はこの辺で」

私は全国およそ1200万人の視聴者の前で醜態を晒してしまったのである。

心のある人間なら、とてもじゃないが生きてはいけなだろう。帰り道、車を運転しながらそんな事を考えていた。

ふと前方を見ると、赤いサイレンが激しく光っているのが見える。赤く光る棒に誘導され、私は静かに愛車を路肩に止めた。

「はい、免許証だしてね」

「は、何がですか？」

「日本語わかりますか？ 免許証だせちゅーとんにゃわ」

「ふっ、ふざけるのはやめてください！ 免許は先月取り消しになっています。

今はきちんとした自己責任で運転してます、はい、それは本当です。はいっ！！」

私はその場に直立不動になり、公僕に一礼した。自らの礼儀正しさに、清々しい気持ちになった。

「は？貴様、無免許か。」

とりあえず車から降りろ。この馬鹿たれがっ」

「何なんですかっ、気分が悪いです」

「ああ、ちよつと言いすぎたかな」

「いえ、飲みすぎて気持ちが悪いので、そろそろ失礼します」

「ん、飲んじやった？」

「はい、ホッピーです、はい」

失意のどん底にあった私に降りかかる災難は、これでもかとどまる事を知らないらしい。

並大抵の人間なら泡を吹いて白目を剥いているところだろう。

しかし、私のインテリジェンスはそんなにやわなものではなかった。

「ちよつと来てもらおうか」

「ふっ」

「いいから来い」

「ふふふ」

「こいつちゅーてんだわっ」

「ふはは、あーはっはっはっ」

「貴様つ、何がおかしいっ！」

「あ、すいません、パンティの事考えてました。」

私はそのまま警察に連行され、取り調べを受けることになった。結局、精神鑑定を受けた結果、神経衰弱ということが認められ、2ヵ月後に精神病院に移送されることになる。それからは無茶苦茶な日々だ。

一日に三回、食後に無理やり薬を飲まされ、歯向かうと怒られた。連帯責任などという言葉の元に、一人がミスをする全員が一同に集められ往復ビンタを受けた時もある。

酷い時などは、廊下を走っていただけでバケツを持って立たされたりもした。

この際だからそのえげつない体罰をここに書き記しておきたいと思う。

私の身に何かあった時は、このノートを持って警察に行って頂きたい。

3 / 1・・・302号室の吉田さんの頭をぶっただけで、グラウンドを三周走らされる。

3 / 2・・・田中さんとじゃれあいながら廊下を走っていたら、お尻をつねられる。

3 / 2・・・私の頭を叩いた田中さんに「ばか」と言ったら定規でお尻を叩かれる。

3 / 3・・・おしっこに行きたいと言うと、「何故休憩時間に行かなかったんだと」、辱めをうける。しかも、憧れの伸美ちゃんの前

でだ。

ここにざっとあげただけでも、ハチャメチャで、がんじがらめな規則はともじやないが我々を人間扱いしているとは言えないであろう。

そして、私はいつしか自分自身というものを見失っていた。

あの時は自分でも何をしているのか分かっていなかったたのであろう。

お弁当にふりかけをかけるのを忘れたり、タイムカードを押し忘れたり、体操着に名札を付けるのをお母さんに頼むのを忘れたり、それはもう滅茶苦茶であつた。

そんな時、事件は起こつたのだ。

私が命より大事にしていた3色ボールペンが無くなつたのだ。先つちよに子熊の絵が描いてあるやつである。

「おかしいではないですかっ」

私は興奮気味に感情をぶちまけた。

「なんですか、こちらは泥棒養成専門学校ですか？あまりにもおかしすぎて神経がやられそうです。んふっ、んふっ」

憤慨した私は着のみ着のまま外へ飛び出した。

それから日本全国を周り、病院のあるべき姿、そして我々がつけた虐待の数々を訴えた。

そして、一人一人を大事にする姿勢、相手への感謝の気持ち、互いに尊重しあう心などを説いて周る。

やがて一人、二人と支持者が集まり、その数は2万人に達した。

満を持して発表した著作『駆け抜ける病院を』が大ベストセラーになり、一躍、時の人になったのである。

当然の如くテレビやラジオに引つ張りだになった。

人に対する無償の愛、命を慈しむ心、ありがとうの精神がみんなに認められた結果であろう。

「先生、次の収録がBスタジオで二時からです」

「うーん、面倒臭いから、君がやっというて」

「いや、しかし………」

「あ？やんのか？こっちは芥山賞作家だぞ。」

「え、いえ………」

「いつでもやったんど、こっちは銀行に2千万円あるんだわ、ああ」

話の分からないマネージャーに対し、結局こちらが折れる形でテレビの出演を承諾した。

面倒だったがこれもお金の為だ、仕方が無い。

金、金、金、世の中、金が全てですか？

違うと信じたい。



そんな溜め息混じりの気持ちの中、収録は始まった。

「えー、今日のゲストは今乗りに乗っている山下次郎さんです」

「え？乗ってる？」

「山下さん、この激しい大声援をお聞き下さい」

「え？ハゲが何ですって？何を頭に乘せてるって？」

「聞こえますか？山下さん」

「激しくはげてるって？あばっ、あばば、あばばーっがばちゃK  
ガ2 jこ、@#>-K f h o : \* J O % ( ' - ' ) @ % & 「

「山下さんっ、山下さんっ！？」

ピー…

「えー、見苦しい映像が流れましたことをお詫びいたします。次の  
ニュースです……………」

私はまたしても全国民に向けて、恥ずかしい姿を発信してしまった。  
今はまた丘のうえの病院で田中さん達とのんびり暮らしている。

あんな物を頭に乘せていなければ、私の人生はもう少しましなもの  
だったであろう。

熟考を重ねた結果、現在の私は総てををさらけ出して生きている。  
恥ずかしいことも、汚いことも、嫌なことも、何もかもだ。  
それが結局、一人の人間としてまっすぐに生きる道だったのだ。  
一歩一歩、このまっすぐに白い道を歩んでいこう。

・・・ピーっ!!

「そこの裸の君っ、おとなしくこっちにきなさい!」

「あは、あはははははーっ」

**（後書き）**

ご感想をお待ちしております。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9726d/>

---

サイコ・ジャーナリスト

2010年11月12日21時10分発行